

平成12年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

丸亀市教育委員会
平成13年3月

はじめに

丸亀市内遺跡発掘調査は、国庫補助事業として文化庁及び香川県の補助を得て、市内に所在する埋蔵文化財の保存・保護を目的として、遺跡の所在や範囲、性格を確認し、丸亀市遺跡地図を完成させる事業です。

一方、本市は総合運動公園整備事業などの大規模な都市・開発工事が着手・計画されておりますので、丸亀市教育委員会としても埋蔵文化財の保護を円滑に進めていく必要があり、遺跡を保護するための資料収集は責務といえます。

今後も市内にある埋蔵文化財の保護に努め、これらの遺跡を積極的に周知していき、郷土を愛する気持ちを育てる役割を果たす事業にしていきたい。

平成13年3月

丸亀市教育委員会

教育長 小佐古 公士

例言

1. 本書は国庫補助・県費補助を得て、丸亀市教育委員会が実施した平成12年度丸亀市内遺跡発掘調査事業の報告書である。
2. 今回実施した調査は、丸亀市郡家町 3203・3204-1・3205-1・3206・3207・3208-2・3208-3・3210-1 番地の南部運動広場整備事業に伴う発掘調査と丸亀市中府町 1丁目 126・136-3 番地の遺跡調査、丸亀市金倉町中の池遺跡の遺構確認調査、手島町の詳細分布調査である。丸亀市金倉町中の池遺跡については、本調査報告で報告する。
3. 発掘調査は丸亀市教育委員会文化課副主任東信男が担当し、北山多佳子と枝島佳奈が調査補助をした。本書の執筆、編集は東信男が担当した。
4. 挿図の一部に国土地理院地形図丸亀、善通寺（1/25,000）を使用した。また実測図の縮尺はすべてスケールで表示した。
5. 遺構の実測は東信男と北山多佳子、枝島佳奈が行い、トレースは北山多佳子が担当した。
6. 出土遺物の実測及びトレースは東信男と北山多佳子、枝島佳奈が担当した。
7. 遺物の写真は、東信男が担当した。
8. 出土遺物と図面・写真は丸亀市金倉現場事務所で保管している。
9. 発掘作業は、獅々堀隆司・森崎義信・高木健一・宮武恵美子・宮武セキ子・高木裕子・横山紀代子各氏の協力を得た。詳細分布調査は、尾崎和敏・波指登・藤原当成・高田正明各氏の協力を得た。
10. 本書の執筆にあたっては、秋山徹・淀川清真・加藤悠・島田治 各氏の助言・協力を得た。記して謝意を表する。

目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 調査の概要	1
A 郡家町	1
B 中府町	4
C 手島町	8
第3章 おわりに	10

図版目次

A 郡家町	
第1図 調査位置図	1
第2図 郡家町試掘平面図	3
B 中府町	
第3図 調査位置図	4
第4図 調査平面図	5
第5図 SX02～05 土層断面図	6
第6図 SX02～05 出土遺物実測図	7
C 手島町	
第7図 高洲遺跡表採遺物実測図	8
第8図 手島町詳細分布調査平面図	9

写真目次

A 郡家町	
図版1 調査区全景 北から	11
図版2 溝跡(第10トレンチ 西から)	11
B 中府町	
図版3 野つぼ検出状況	11
図版4 SX01 出土遺物	11
図版5 SX02 出土遺物	11
図版6 SX03 出土遺物	11
図版7 SX04 出土遺物	11
図版8 SX05 出土遺物	11
C 手島町	
図版9 高洲遺跡踏査	12
図版10 高洲遺跡採集遺物	12
図版11 高洲遺跡山上部(伝烽火台跡)	12
図版12 宝塔	12
図版13 高ノ越集石遺構	12
図版14 安養寺・金輪寺古瓦	12

第1章 調査に至る経緯

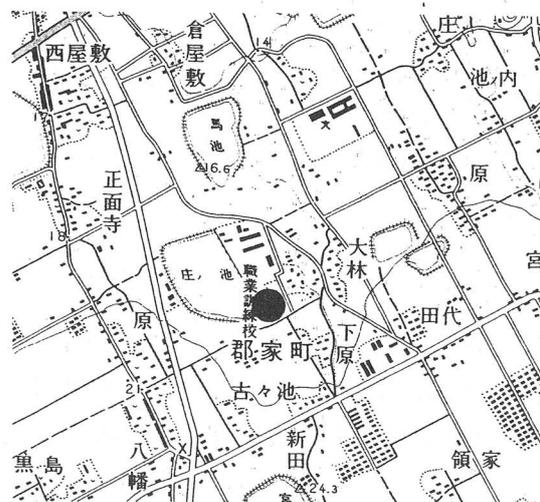
平成12年度丸亀市内遺跡発掘調査事業は、国庫補助事業として文化庁と香川県の補助を得て丸亀市が実施した。調査は丸亀市教育委員会で行い、本年度は丸亀市郡家町の南部運動広場整備事業に伴う発掘調査と丸亀市中府町で遺跡確認のための発掘調査、手島町の詳細分布調査を実施した。

また、丸亀市金倉町所在の中の池遺跡でも遺跡確認のための調査を行っているが、遺構密度が高く、本調査を必要としたので表土掘削による遺構の範囲確認のみ実施した。この調査報告は本調査の成果報告と合わせて行うものとする。

第2章 調査の概要

A 郡家町

1. 調査目的 南部運動広場整備事業に伴う遺跡確認調査のため
2. 調査場所 丸亀市郡家町 3203・3204-1・3205-1・3206・3207・3208-2・3208-3・3210-1番地
3. 調査主体 丸亀市教育委員会文化課
4. 調査担当 文化課 東信男・北山多佳子・枝島佳奈
5. 調査期間 平成12年7月26日～8月3日
6. 調査面積 約664㎡
7. 調査方法 トレンチによる掘削断面と平面の精査



第1図 調査位置図

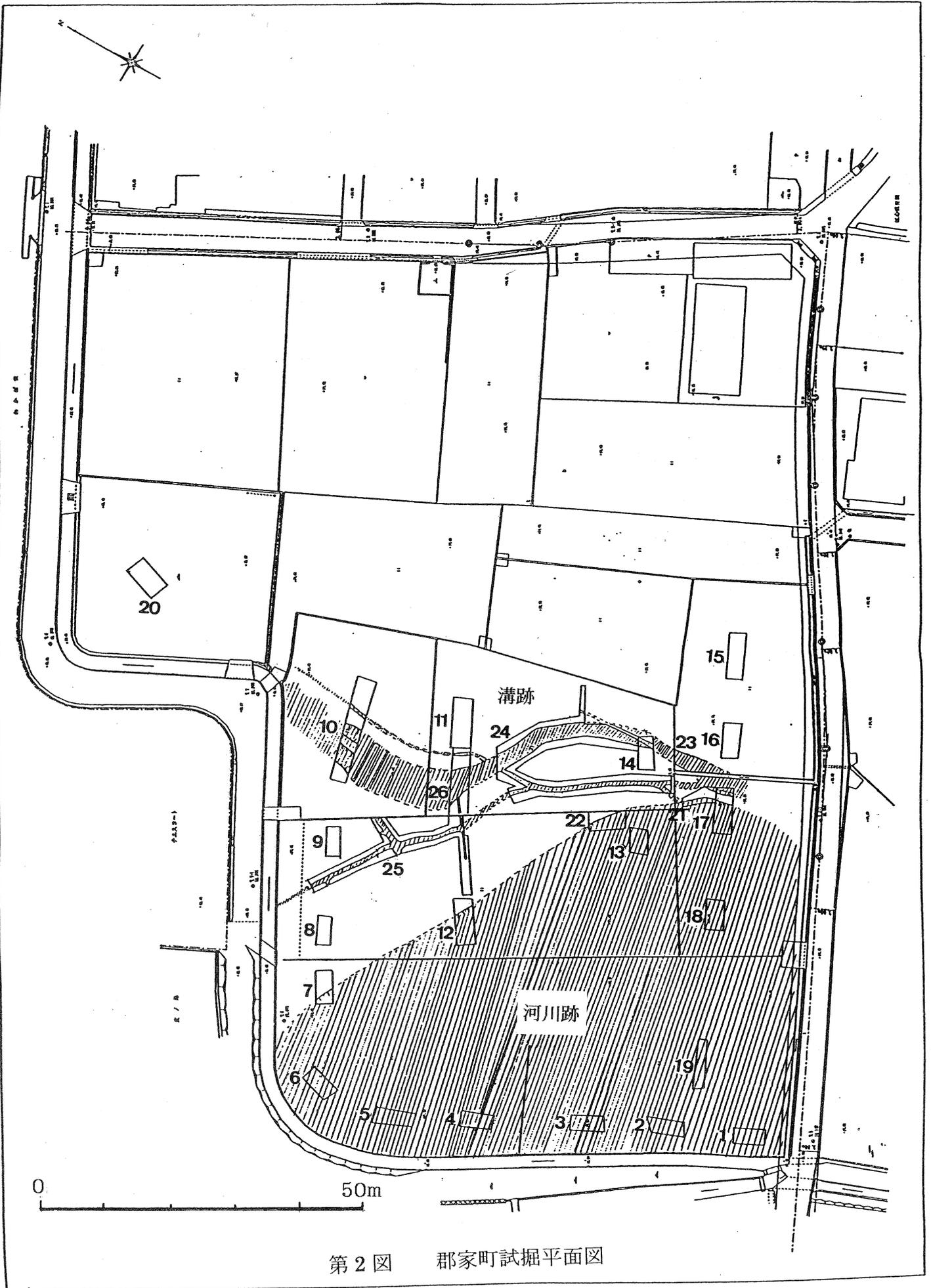
8. トレンチ調査の概要

番号	規模	遺構	出土遺物	特記事項
1	2.2×5m	河川跡	なし	耕作土から約36cm下で河川跡を検出。
2	2.1×5.3m	河川跡	なし	耕作土から約38cm下で河川跡を検出。
3	2.1×5.1m	河川跡	なし	
4	2.1×5m	河川跡	なし	耕作土から約46cm下で河川跡を検出。
5	2.1×6.2m	河川跡	なし	
6	2.5×5m	河川跡	なし	耕作土から約47cm下で河川跡を検出。
7	2.5×5.2m	河川跡	なし	耕作土から約34cm下で包含層。36cm下で地山を検出。河川跡東岸を検出。
8	2.1×4.8m	なし	なし	耕作土から約24cm下で包含層。約34cm下で地山を確認。
9	2.3×4.8m	ピット2	なし	耕作土から約25cm下でピットを検出。

番号	規 模	遺 構	出 土 遺 物	特 記 事 項
10	2.4×16.5m	溝跡 2	弥生土器片	耕作土から約 20cm 下で地山。その直上で溝跡を 2 本検出。1 本は、幅約 70cm、深さ約 54cm。もう 1 本は、幅約 7m、最下層の褐灰色細砂層に弥生土器の小片を含む。
11	3 ×7.5m	溝跡	弥生土器片	耕作土から約 20cm 下で地山。
12	2.8×7.2m	河川跡	なし	耕作土から約 24cm 下で地山。河川跡東岸を検出。
13	2.8×3.5m	河川跡	なし	耕作土から約 32cm 下で河川跡を検出。
14	2.2×5m	溝跡	弥生土器片	耕作土から約 10cm 下で溝跡を検出。
15	2.5×7.3m	なし	なし	
16	3 ×5.5m	なし	なし	
17	2.8×7m	河川・溝跡	なし	耕作土から約 20cm 下で溝跡と河川跡を検出。溝跡は、幅 1m 以上、深さ 47cm あり、最下層のにぶい黄橙色細砂層より、弥生土器の小片が出土。
18	3×4.8m	河川跡	なし	耕作土から約 32cm 下で河川跡を検出。
19	7.5×1.5m	河川跡	なし	耕作土から約 34cm 下で河川跡を検出。
20	3×4.9m	河川跡	なし	耕作土から約 60cm 下で河川跡を検出。
21	5×2m	河川跡	なし	
22	5.5×3m	河川跡	なし	
23	8×3m	溝跡	なし	
24	200.5 m ²	溝跡	なし	
25	87.5 m ²	溝跡	なし	
26	10×2.5m	溝跡	なし	

9. まとめ

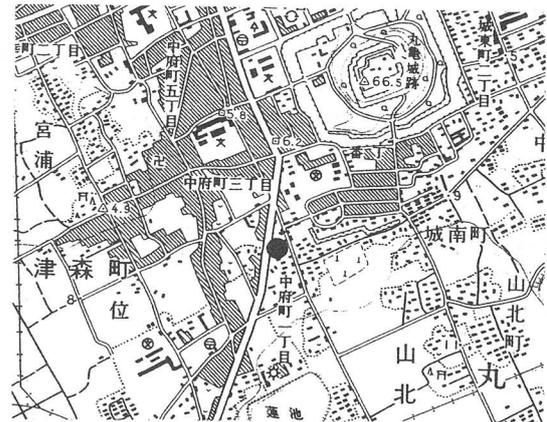
調査は、20ヶ所でトレンチ調査、6ヶ所で溝の方向確認を行った。各トレンチの内容は上記のとおりである。1～7・12・13・17～22 トレンチで河川跡を検出しており、調査地の西側一帯は庄の池方向に流れる河川跡である。遺構の検出は、9トレンチからピットを検出したが遺物の出土はなく時期不明である。10・11・14・17・23～26 トレンチで、この河川跡から派生する溝跡を確認している。10・14・17 トレンチの調査で検出した溝跡の最下部にある砂層から弥生土器の小片が出土しているが、周辺に遺構はなく点数が2, 3点であり、かなり摩滅していることから上流域より流れ込んだものであると思われる。



第2図 郡家町試掘平面図

B 中府町

1. 調査目的 遺跡確認調査
2. 調査場所 丸亀市中府町 1 丁目 126
・ 1 丁目 136 の 3
3. 調査主体 丸亀市教育委員会文化課
4. 調査担当 文化課 東 信男
5. 調査期間 平成13年 1 月 23 日～2 月 23 日
6. 調査面積 約 70.4 m²
7. 調査方法 トレンチによる平面・土層断面の精査。



第 3 図 調査位置図

8. トレンチ調査の概要

番号	規 模	遺 構	遺 物	特 記 事 項
1	7×1.5m	SP01	なし	
2	44.9 m ²	SX01～05・SP02～09	陶磁器、陶器、瓦等	SX01～05 は野つぼ
3	2×1.5m	なし	なし	
4	2×1.5m	なし	なし	
5	2×1.5m	なし	なし	
6	2×1.5m	なし	なし	
7	2×1.5m	なし	なし	

9. 出土遺物

SX01 からは瓦片、陶磁器片が出土している。

SX02 からは瓦片、陶磁器片、播鉢等が出土している。1 は陶器皿。2 は陶器碗。3 は陶器鉢。4・5 は磁器碗である。

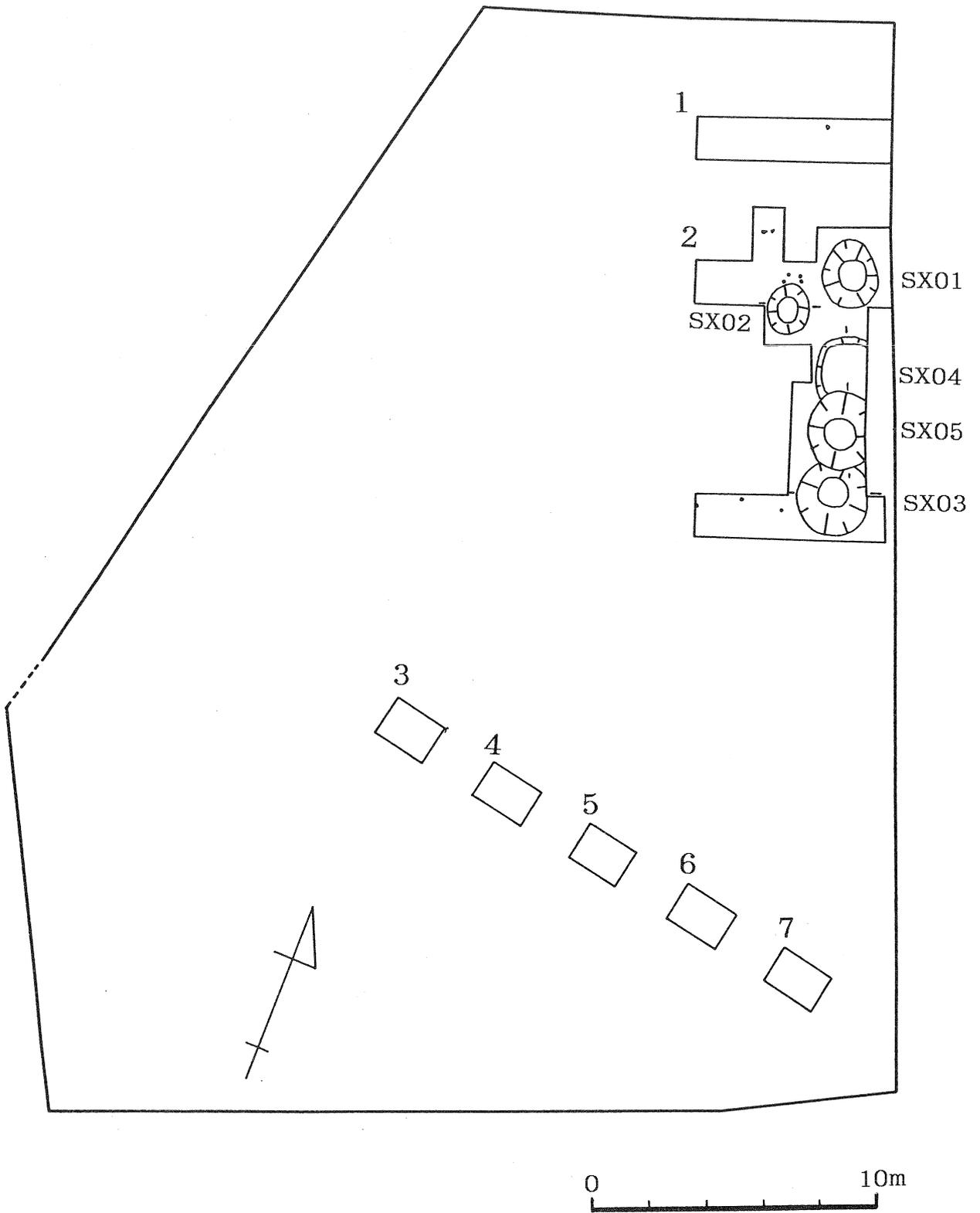
SX03 からは瓦片、陶磁器片、鉄器片、サヌカイトが出土している。6 は土師質皿、7 は灯明皿。8 は陶器碗。9 は磁器皿である。おおむね江戸後期の遺物であるが、1 点プリントを施した近代以降のものと思われる磁器碗も出土している。

SX04 からは軒丸瓦・丸瓦片、陶磁器片、播鉢が出土している。10～13 は陶器碗、14 は唐津系の刷毛目皿。15 は備前の播鉢。16 は肥前系の磁器碗である。17 は磁器皿である。

SX05 からは瓦、陶磁器、鉄器が出土している。18 は陶器碗。19 は白磁。20・21 は磁器碗、21 は磁器皿である。

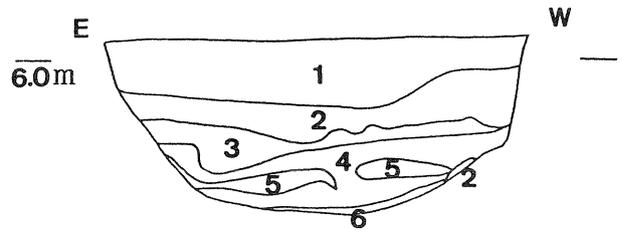
10. まとめ

7ヶ所でトレンチ調査を行い必要に応じて範囲を拡張した。SX01～05 は江戸時代後期以降の遺物を包含する素焼きの器を持たない野つぼである。これ以外の顕著な遺構、SX01～05 以外からの出土遺物はなかった。

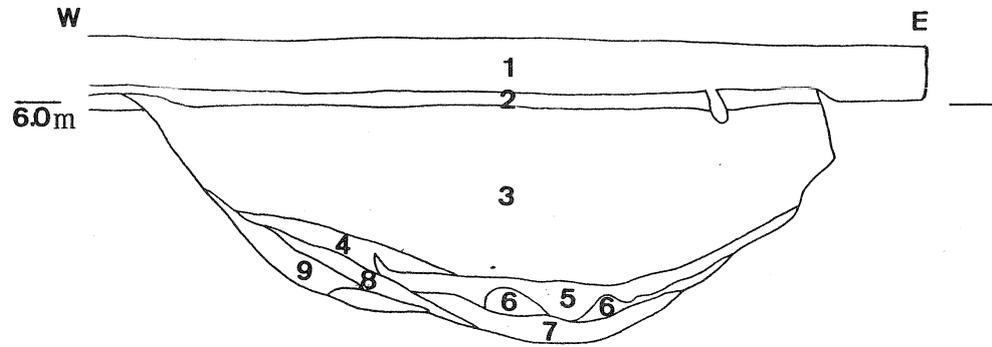


第 4 図 調査平面図

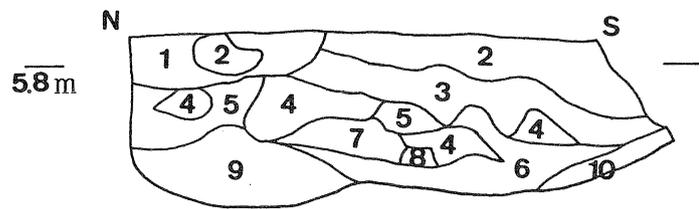
- SX02
1. 淡黄灰色粘土層
 2. 明灰黄色シルト層
 3. 黄色シルト層
 4. 色粘質土層
 5. 暗黄色シルト層
 6. 淡灰褐色粘質シルト層



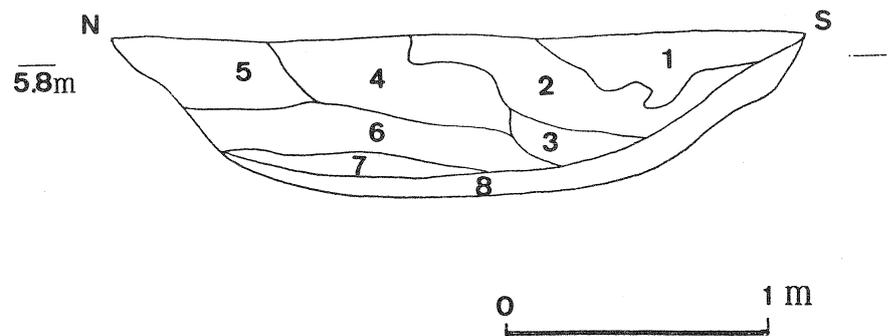
- SX03
1. 耕作土
 2. 床土
 3. 灰茶褐色粘質シルト層
 4. 淡灰茶褐色粘質シルト層
 5. 粘質土層
 6. 灰茶色粘質土層
 7. 灰色粘土層
 8. 灰色粘土層
 9. 灰色粘質シルト層
 10. 粘質シルト層



- SX04
1. 灰白色シルト層
 2. 黄白色シルト層
 3. 黄灰色シルト層
 4. 灰色シルト層
 5. 灰色シルト層
 6. 灰色シルト層
 7. 灰色シルト層
 8. 灰白色シルト層
 9. 灰白色粘質土層
 10. 灰白色シルト層

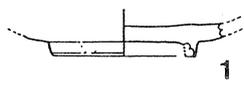


- SX05
1. 白色細砂層
 2. 灰褐色粘質土層
 3. 灰褐色粘質土層
 4. シルト層
 5. 灰白細砂層
 6. 褐色シルト層
 7. 白色細砂層
 8. 白色粘質土

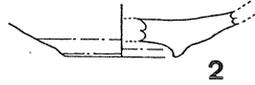


第5図 SX02~05土層断面図

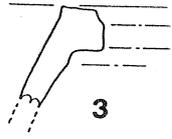
SX02



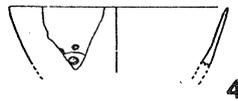
1



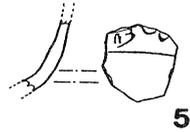
2



3



4

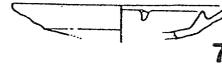


5

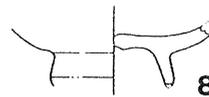
SX03



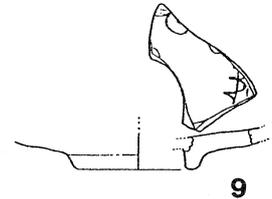
6



7

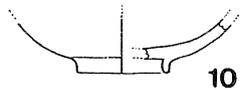


8

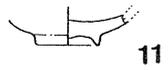


9

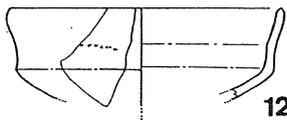
SX04



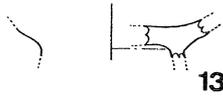
10



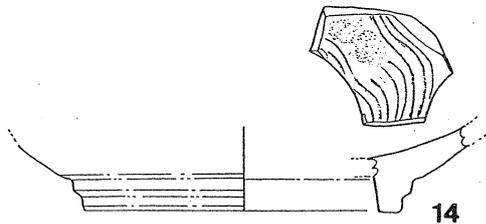
11



12



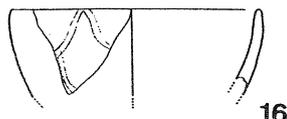
13



14



15

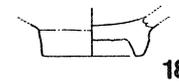


16

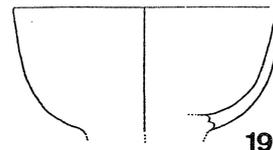


17

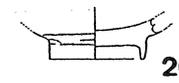
SX05



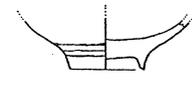
18



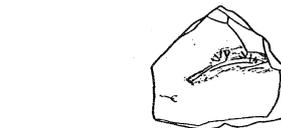
19



20



21



22



第6图 SX02~05出土遺物実測図

C 手島町

1. 調査目的 詳細分布調査
2. 調査場所 丸亀市手島町
3. 調査主体 丸亀市教育委員会文化課
4. 調査担当 文化課 東 信男
5. 調査期間 平成 13 年 3 月 3 日～3 月 24 日
6. 詳細分布調査の概要

高洲遺跡とその山頂部、尾根筋。城山、西浦、尾形山、高ノ越で踏査を実施した。

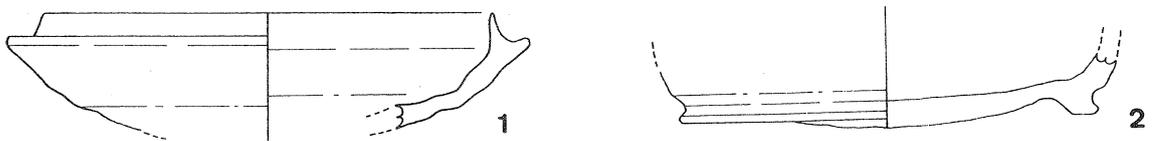
7. まとめ

高洲遺跡の州浜が近年移動しており、消失の危機にあるとの報告を受け調査を実施した。遺跡の中心部分と推定される州浜はほぼ流失状態にある。しかし、土器片は周辺部で多数採集できる状況にある。第 7 図 1・2 は須恵器の杯身である。2 は丸底の杯身で 8 世紀前半のものと思われる。遺跡の主要部は流失しているが、遺跡の広がりを確認する必要がある。また、州浜の尾根筋にあたる山頂は地元で烽火台と伝えられている。踏査したところ台状に岩盤が露呈している。今後調査が必要であろう。

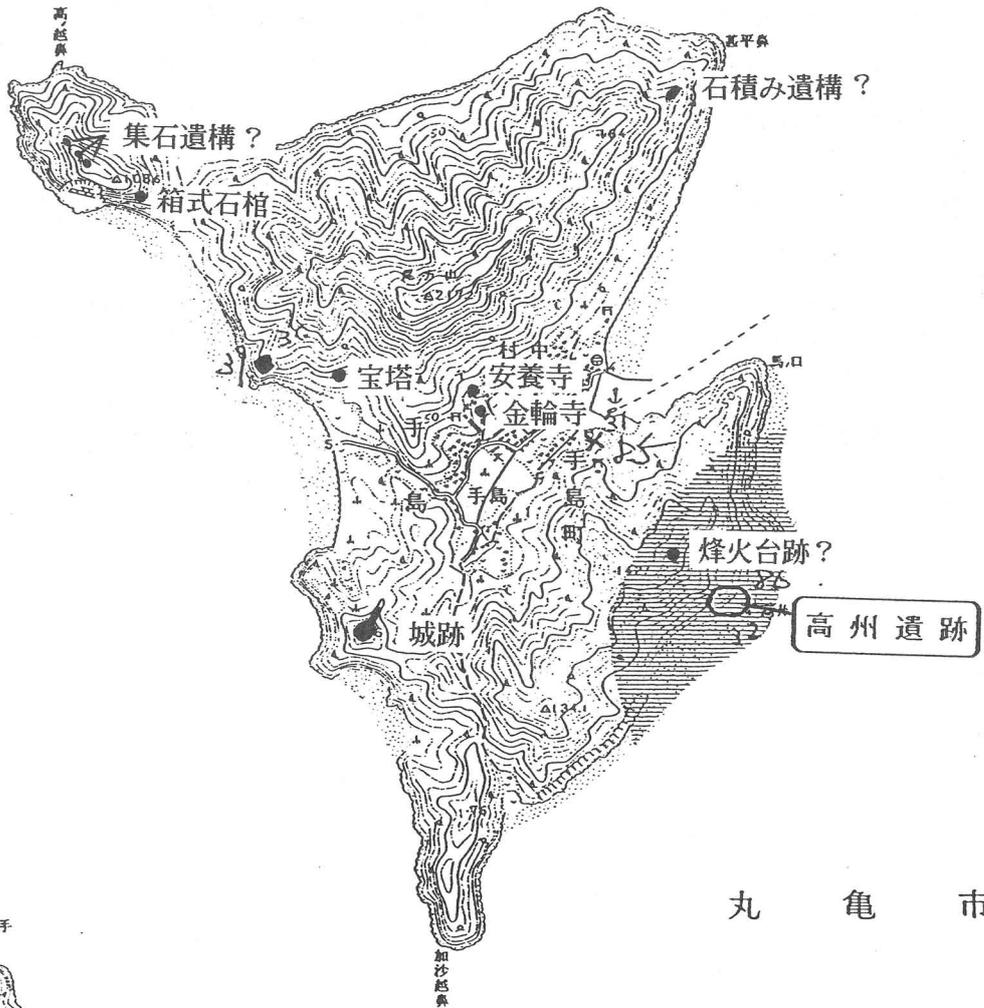
西浦地区の畑跡では宝塔を確認した。高ノ越では箱式石棺が確認されているが、今回この山頂部の尾根筋と甚平鼻の尾根筋で集石遺構が確認された。地元では山の境界は石を用いて行うようであるが、今回確認したものは境界石と考えられないものであり、不明な遺構である。今後聞き取り調査等を行う必要がある。

城山（じょうやま）では曲輪状の平坦地、人工的な空堀状の掘り込みなど城跡にみられるような遺構を確認した。

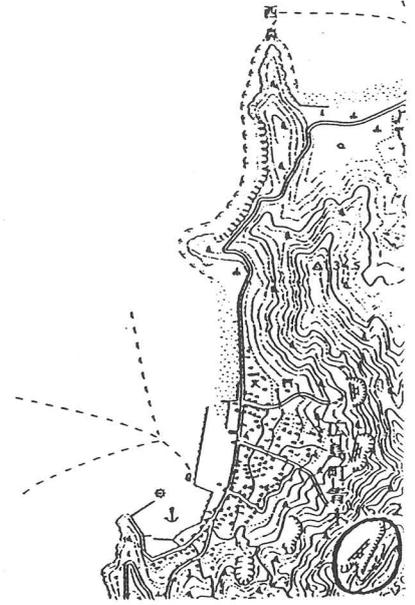
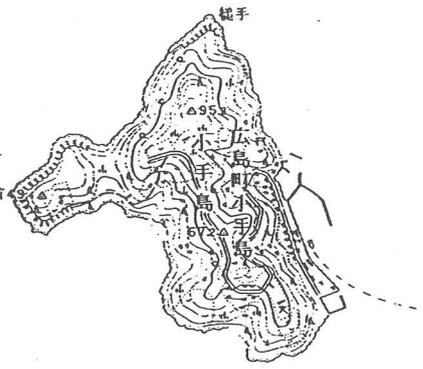
第 7 図 高洲遺跡表採遺物実測図



S=1/2



丸 龜 市



塩 飽 諸 島

S=1/25000

第8図 手島町詳細分布調査平面図

第3章 おわりに

今年度の当市における試掘・確認調査は、郡家町、中府町と金倉町中の池でおこなった。郡家町の南部運動広場建設工事に伴う確認調査は、河川跡・溝跡を検出しているが、遺物の出土は数点で磨耗した土器の小片であり、溝跡も自然流路であることから立会による工事着工とした。

中府町の調査では、江戸時代後期以降の野つぼを 5 基検出したのみで、他の顕著な遺構の検出はなかったので立会不用とした。

金倉町中の池の調査では、遺物を多量に包含する包含層や環濠の一部と思われる溝跡を確認したことから、本調査を行うこととした。この報告については、本調査報告と併せて行うこととする。

手島の詳細分布調査は、高洲遺跡の範囲確認を行う必要があることや島内に所在するその他の文化財についても全般的に調査し、保護措置を図る必要がある。

図版1 調査区全景 北から



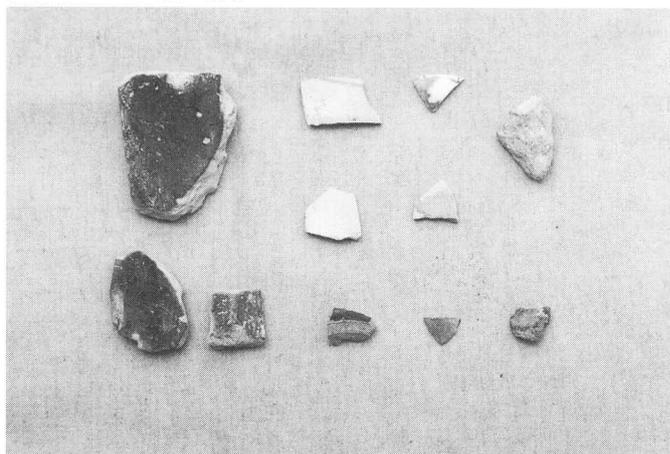
図版2 溝跡 (第10トレンチ 西から)



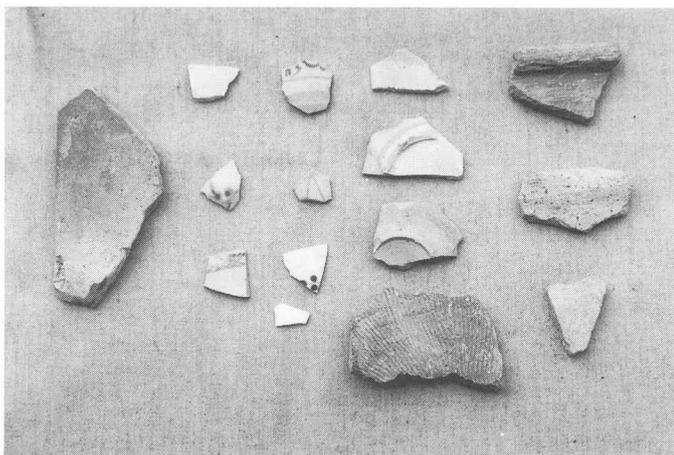
図版3 野っぱ検出状況



図版4 SX01 出土遺物



図版5 SX02 出土遺物



図版6 SX03 出土遺物



図版7 SX04 出土遺物



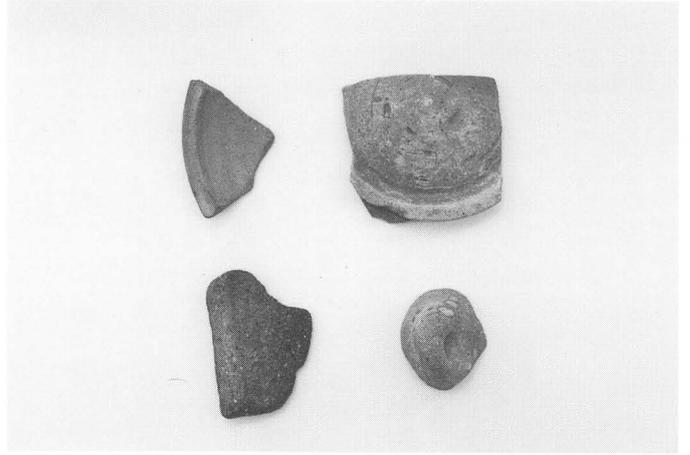
図版8 SX05 出土遺物



図版9 高洲遺跡踏査



図版10 高洲遺跡採集遺物



図版11 高洲遺跡山上部（伝烽火台跡）



図版12 宝塔



図版13 高ノ越集石遺構



図版14 安養寺・金輪寺古瓦



報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅうにねんどまるがめしなしいせきはつかつちょうさほうこくしよ							
書名	平成12年度丸亀市内遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	東 信男							
編集機関	丸亀市教育委員会							
所在地	〒763-8501 香川県丸亀市大手町二丁目3番1号							
発行年月日	西暦2001年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° / ' / "	東 経 ° / ' / "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ぐんげ 郡家町	かがわけん 香川県 まるがめし 丸亀市 ぐんげちょう 郡家町	37202		34° 15' 28"	133° 48' 50"	2000.7.26 ～ 2000.8.3	664	南部運動 広場整備 事業
なかぶちょう 中府町	かがわけん 香川県 まるがめし 丸亀市 なかぶちょう 中府町	37202		34° 16' 40"	133° 48' 00"	2001.1.23 ～ 2001.2.23	70.4	遺跡確認 調査
てしまちょう 手島町	かがわけん 香川県 まるがめし 丸亀市 てしまちょう 手島町	37202		34° 22' 40" ～ 34° 24' 40"	133° 39' 10" ～ 133° 40' 40"	2001.3.3 ～ 2001.3.24		詳細分布 調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
郡家町		不明	河川跡・溝跡					
中府町		近世以降	野つぼ	土器片(陶磁器)・ 瓦片・サヌカイト等				
手島町								
高洲遺跡		古代	不明	土器片(須恵器等)				
西浦	石造物	中世	宝塔					
城山	城跡	中世	曲輪等					

平成12年度
丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

平成13年 3月発行

編集 香川県丸亀市大手町二丁目三番一号
発行 丸 亀 市 教 育 委 員 会

印刷 (株) 四 国 工 業 写 真